

東京都JRAT 第9隊 能登半島地震 支援活動報告

リハビリ推進センター／国立国際医療研究センター病院



私たち東京都JRAT第9隊の理学療法士2名は、3月25日に金沢入りし、3月26日から28日まで現地での活動にあたりました。活動場所はいしかわ総合スポーツセンターで、避難者の数は減少していたものの活動時には1.5次避難所に約100名、一時(いつとき)待機ステーションに約60名の方がいらっしゃいました。JRAT活動のフェーズとしては、震災から約3ヶ月経過し、また、約2週間後にJRAT撤退を見据えた時期の活動でした。

1.5次避難所には要配慮者、一時待機ステーションには要介護者相当の方々方が避難されており、支援の数としては後者の方々に対して多く行いました。私たちの支援内容は個別介入で、ADLの再評価や、手すりや歩行補助具などの使用する福祉用具の再評価・調整、再度のリハビリアージが主でしたが、長期化する避難所生活により廃用症候群が進行し、転倒が発生しやすい状況でした。

JRAT活動は多くの異なるスタッフが交代で支援を継続していき、また避難所の方々の方々の状況は日々変化する為、円滑な支援をする上で特に重要だと感じたのは、自分達の支援時だけの情報による「点」の介入でなく、自分達の前の情報を踏まえ、また後につなげる「線」の介入でした。判断に迷うこともありましたが、活動場所にはリーダー的な役割であるL-スタッフが常駐していたため、相談しながら安心して支援にあたることができました。

スポーツセンターではJRATメンバーとして医師も活動していた為、個々のケースに対して病態面を含めた多角的な視点での介入が可能でした。また、普段働いている病院や在宅でもそうですが、リハ職が介入する時間は限られている為、避難所の方々方が安全に安心して過ごすために看護・介護等の他職種支援スタッフとの連携が欠かせませんでした。普段から多職種連携、チームアプローチを重視していたことが活かされた支援活動となりました。